

今回は、今年度最後に公開していただきました1年1組の授業を紹介します。1年生は入学当初の4月から、平仮名、片仮名そして漢字と基礎基本になる文字指導が続きます。山や川等の象形文字から漢字指導に入りますが、1年生で80文字もあります。小黒板には、1年生で出てきた漢字がずらっと貼られていました。それを見た子ども達は「全部ならった漢字や!」と嬉しそうでした。2年生になると、倍の160字になります。この前の校内研で提案しましたが、漢字の学習の仕方を身に付ける4月が大切だと考えています。漢字に興味を持ち、漢字を正しく覚え、自在に使えるような子ども達を育てる指導法をもっと学びたいと思います。

見て見での授業より

2月27日(水) 3校時 国語科 1年2組 濱松 美枝 教諭
単元名「かたちのにているかん字」
本時の目標：形の似ている漢字を比べて、それぞれの違いに注意しながら文を作ることができる。



最終板書

授業の主な流れ



①授業の導入で漢字を半分見せて、「何という漢字でしょう?」と児童の興味を引き付けていました。似ている漢字の違うところに着目させ、めあてへ繋がります。

②習った漢字を80個貼ったボードを見せ、「この中から、かたちの似ている漢字を見つけて、ノートに書きます。」と指示し、ノートの書き方を説明しました。児童には、マスが4色に色分けされた80字の漢字シートを配布しています。似ている漢字を児童が説明し

③次に、授業のメインである似ている漢字を使っての文づくりを行いました。児童は似ている漢字を見つけ、「漢字名人ノート」に文づくりをしていきます。できたものを児童が黒板に書いていま

児童に配った漢字シート



大きいと犬で文をつくらうか

「草」と「車」で「草が車にあたる。」と書いたよ。

④最後にノートに「まとめ」を書いて授業は終わりました。

学期末の慌ただしい中、今年度最後の授業を濱松先生に締めくくっていただきました。ベテランの先生には、児童を引きつけるいろんな引き出しがあり、今回も4色に色分けした漢字シートやミニノートのアイデアを見せていただきました。低学年で4つの部屋を意識してマスの中に漢字を書くことでバランスのとれた漢字を意識して書くようになると思います。濱松先生、授業公開ありがとうございました。

事後研より

- 児童に持たせた「漢字シート」や「漢字名人ノート」等、準備物が素晴らしかった。「名人」という言葉等児童がワクワクするしかけがあり、ほぼ全員が活躍できる時間であった。
- 児童を終始ほめていて、ほめる言葉が参考になった。
- 筆圧のある字を書いていた、発表の時、説明の仕方が上手だったり同じ学年の児童への指導が参考になった。
- 児童が黒板に文を書いたが、時間短縮のためにも先生が書いた方がよかったのではないか。
- 「まとめ」には、筆順や漢字の意味に触れていたが、授業の中では筆順や漢字の意味につながる発問は見られなかった。「めあて」に対しての「まとめ」にはなっていなかった。
- 二人に1枚のシートを配って、時間内にできるだけ多くの似ている漢字を見つけさせるようなゲーム性を与えると、対話も生まれ、集中して探ることができるのではないか。
- 3時間扱いのところを2時間でやる計画になっており、似ている漢字を見つけるのと文づくりが1時間となっている本時は、少し無理があったように感じられた。間違えやすい漢字をしっかりと覚えさせるためにも、似ている漢字を見つけるだけの1時間でもよかったのではないか。

授業者のリフレクションより

- 資 付けたい力の絞りが弱かったため、中途半端になってしまい「めあて」と「まとめ」がリンクしなかった。教材研究が不足していた。
- 主対深 興味を持たせる手立て(準備)はあったが、タイムマネジメントの弱さで活用しきれなかった。また、することを欲張りすぎた計画になり、対話の時間が十分にとれなかった。
- 言 「本」には棒があるけれど、「木」にはない等、子ども達は違いを見つけていた。量を増やすことでねらいが達成できるようになる。作った文の助詞の誤りに気付いた子どもがいたが、本時のねらいとする見方・考え方になっているかの見極めが必要。
- 感 子ども達は漢字の違うところに注目して家庭学習でたくさんの似ている漢字を見つけてきていた。授業のスピードアップをはかるために、子どもに文を書かす教師が板書すると良かった。